

第2分科会

テーマ(気になる子どもの保育の充実)

会場(かりゆしアーバンリゾートナハ・ニライカナイ)

参加者数(245人)

幹事：沖縄県 よしたけ保育園

座長団：鹿児島県 二葉保育園 / 沖縄県 おおたけ保育園

助言者：佐賀県 ひかり保育園 / 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

意見発表者：福岡県 小郡保育園 / 熊本県 八千把保育園 / 宮崎県 三名保育園

記録：沖縄県 みやび保育園



1. 意見発表趣旨

発表1 「テーマ：一人ひとりの子どもとともに 」

「発表園：福岡県 小郡保育園 」

研究の動機・ねらい

.....実体験の不足、テレビやゲームの影響、過保護・過干渉などという今の子どもたちの実態をふまえて、自尊感情、健康な体力、学ぶ意欲、規範意識をもてる子どもを育てる。.....

研究内容

.....・一人一人の個性を大切にした取り組み。基本的な生活習慣を大切に、遊びもその子にあったもの、手足、からだ、手先を使うことを大切にわらべうたや手遊びを日常的に行う。.....

.....・健診のチェック、健診場所に出向いたり、保健師さんと個別の相談を行ったり、健診を大切に子どもたちの様子を知る。.....

結果及び考察

... わらべうたを見直し、わらべうたを深め、みんなが支援していくことを大切にしている。

... 他機関との連携、専門機関との就学支援などを行い保護者も向き合うことの大切さを感じてくれている。

助言内容

... 各地域、各園の特色をいかした取り組みであったと思う。親に変化があることも理由の一つである。(母親の社会進出等)

... 子どもたちが楽しめる環境をよく知っている。保育の構造上の問題を自ら整えていく姿勢が感じられる。

発表2 「テーマ：食から見つめる子どもたち ～輝く笑顔のために～」

「発表園：熊本県 八千把保育園」

研究の動機・ねらい

... 市内の保育園6園で共通して多く悩みや問題が挙げられた「食事」について視点を絞り研究した。

... 「食事」という観点から子どもたちや保育を見つめ、意見交換しながら新たな視点を持ち、問題の解決・保育の充実を図る。

研究内容

... ・月に一度の研究会代表者による、家庭へ食事に関するアンケート配布・実施
... ・各園で食育の実践

結果及び考察

... 偏食をしていた子が、様々な体験、周りの友達の刺激を受け、食事に対して意欲的な姿勢を見せるようになった。

... 嘔まずに飲み込んだり、他の子の物を食べたりと食事の態度に疑問を感じていた。食事で研究を進めていたが発達障害が原因の一つだとわかった。

助言内容

... 家庭の中に一歩入るだけで、その子の育ちが見えるので、入園後一週間で家庭訪問を実施するところは素晴らしいと思うし、参考にしたい。

... 栄養士と保育士の連携を密にすることが大切である。

...食事の問題から始まったが他の発達の問題が出てきた。偏食のケースには過敏性が強いという発達障害もある。コミュニケーションの必要性を保育の場面でどう伝えていくか、家庭や園でのことがどのくらい伝わりあっているか。自治体を通してどのように支援を進めていくかが課題。

発表3 「テーマ：気になる子どもの保育の充実」
「発表園：宮崎県 三名保育園」

研究の動機・ねらい

...環境の変化が子どもの発達にも影響を与え、気になる子が多くなっていると感じる。発達の遅れが見られたり、人とのコミュニケーションがうまくとれなかったり、多動であったり等、援助のあり方に不安を感じている。

研究内容

...気になる子どもたちの中でも、特に気になる子について、これまでの発達の記録を分析し、保護者との関わり合いを含め、保育士の援助を中心に考える。

結果及び考察

...園全体でその子のことを見守り、意見や助言などを出し合い、他機関との連携を持つことで、その子にとってよりよい保育ができ、様々な成長の伸びが見られた。一人一人の特性を大切に、保護者と共に子育てが楽しめるような援助、信頼関係作りを心がけていく。

助言内容

...専門機関との連携が密に取れていてよい。子どもの行動には理由があるので、記録をとって皆で話し合うことが大切である。

...気になる子への援助は、保育園だけで対応するのは難しいので、保健所や療育センター等、他機関との連携が必要である。親は子どもに発達障害があるとはすぐには認められないので、どう伝えていくか、どう支援していくかが大切である。

三者の発表に対する質疑内容と回答

...小郡保育園の体制について聞きたい

回答：月刊誌「保育の友」の記事で継続勉強会をしている。

三名保育園の、絵カードとはどんなものですか

回答：デジカメで一日の流れ、持ち物の写真を作り、活動の度に見せている。

2. 討議内容

討議のテーマ

- (1) 子どもたちの育ちの実態や対応と今後の課題
- (2) 他機関との連携
- (3) 保育者の気になる子と保護者への援助はどうあるべきか

討議のまとめ

テーマ(1) 子どもたちの育ちの実態や対応と今後の課題

気になる子どもたちが確実に増えており、気になる親も増加している。特に幼児に増加の傾向が見られる。具体的には、すぐ手が出る、歩きまわったり、他児を押ししたり、噛んだりする等の行動が各園でも見られるようになっている。

今後の課題は親との関係の構築であるが、難しさもある。

テーマ(2) 他機関との連携

他の専門機関名を列挙し確認しあう。事例のケースによって専門の機関を選ぶ。すぐに診断ではなく保健との関係を大事にし保健師との繋がりを密にする。

(助言) 職員と親との意思の疎通が必要。行事の方法等を考え喜びを与えられたら良い。保護者へと発信し周りの人々を巻き込んで創意工夫して欲しい。

環境を整え子どもたちの特性にあわせて支援していく仕組みがある。

園を通し「気づき」を感じる親がいる。親支援とは親の周辺状態を知ること。

テーマ(3): 保育者の気になる子と保護者への援助はどうあるべきか

気になる子とは

(ア) 手がすぐ出る、他児を傷つける (イ) クラスから抜け出しウロウロする

(ウ) 暴言を吐く (エ) わがままと障がいグレーゾーンである

保護者の対応とは

(ア) 保護者が「気になる子」を受け入れるのは難しい。認めたくない。

(イ) どのように伝えるかが難しい (ウ) 子どもへの関心が薄い親がいる

(エ) 自分中心の食生活をしている

保育者としての対応と課題

(ア) 気になる子へ

・別の部屋へ連れて行く(クールダウン)・落ち着かせて個別で対応する

- ・保健師、療育センター、発達センターとの連携（保護者の了解の下に）.....
- （イ）保護者への対応.....
- ・困っていますよ、と子どもの立場に立って伝える ・信頼関係を築く.....
- ・保育者が知識を習得し専門性を高める ・早期発見の大切さを伝える.....
- ・自由遊びの場面をみてもらう（隠れてみてもらう）.....

